

第 28 回 圧力設備規格審議委員会議事録

1. 日時：平成 29 年 11 月 2 日(木) 14:00～17:00

2. 場所：HPI 会議室

3. 出席者（敬称略）

委員：高木委員長(火原協)、熊谷（電中研）、児玉（新日鉄住金）、佐藤（発電技検）、小川（青学大）、吉川（東大）、新川（東芝 ESS）、金丸（日揮/門委員代理）、板谷（東洋エンジニア/前田委員代理）、御手洗（千代田化工）、小森（三井化学）、武部（日本ガス協会）、石毛（IHI）、松田（ベストマテリア、記）

計 14 名

事務局：田中（HPI）

4. 配布資料 圧力設備規格審議委員会-28-

1 第 27 回圧力設備規格審議委員会 議事録（案）

2. HPIS A102:2013 改正内容の説明

2-1 付属書

2-2 本文

2-3 改正内容一覧

3. HPIS E 013:2XXX 改正の件

3-1 付議書

3-2 本体

3-3 企画案の骨子

3-4 コメントおよび対応表

3-5 宮崎委員からのコメント及び回答

5. 議 事

高木委員長の司会のもと、出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認された。また、三井化学(株)の委員が小森一夫氏へ交代されたことが、委員長より報告された。

5.1 前回議事録（案）の確認

事前に電子メールによって配布、確認がされていた議事録（案）について、承認された。

5.2 改正案審議

5.2.1 HPIS A 102 審議（HPI 事務局説明）

第 27 回圧力設備規格審議委員会で、圧力設備規格審議委員会規則、及び規格制定手順書が改正され、本会の規格を HPIS, HPI TR と規定した。それに伴い、規格作成基準である HPIS A 102 について、文言の追加、修正等の改正を行った。事務局からの改正内容の説明の後、審議が行われ、委員より以下のコメントが出された。

● 規格番号 「HPIS A 102 : 2XXX」の「A」と「102」の間にスペースを空ける。

● 委員名簿に、委員名の間違いがあるので、確認して修正する。

上記コメントを修正した最終版を書面審議にかけることが、前回一致で承認された。

5.2.2 HPIS E 103 審議（小川委員 説明）

材料スクリーニングのために、水素タンク口金の Al 及びその合金が水素充填時に低温で湿潤状態となり、大気側または水素側の水の腐食反応で発生する原子状水素が起こす材料の HG-SCC 感受性について、SCC(定荷重・歪)試験・評価方法を規定し、詳細試験の前段階のものとする。よって、許容応力拡大係数 KIAPP は、0.2%耐力と 1mm 亀裂長からの最大推定値であり、実験腐食環境はマイルドである。SAE 規格への提案を行う。

配布資料に対する説明後、以下の審議を行った。

1) 審議内容

- (規格審議委員会) ベースとなった試験・論文はあるのか?また、添付しないか?
(小川委員)NEDO 事業で本年まで実施しており、その報告は公開予定である。その他の公開文書 (HPI 技報) を解説書として、添付は今回しない。
- (規格審議委員会) 文中、Where の”W”の大文字小文字が混在している。
(小川委員)統一する。
- (小川委員) 6a)2)での予亀裂の測定精度の記載は経験上難しい。7.5 項の SEM 他の観察で、精度を 0.01mm?等規定する。
- (規格審議委員会) 7.2a)耐力測定では、ISO に温度規定ありえるので確認する。
- (規格審議委員会) 前書きに数行の背景等の解説が欲しい。
(小川委員) 追加する。
- (規格審議委員会) 表紙 HPIIS の I を取ること。
(小川委員) 了解。

2) 書面投票への決議

全会一致で承認。時期は 11/13 (遅くとも) から 2 週間の予定。

6. その他 (HPI 事務局)

- 1) 第 26、27 回委員会で審議された HPIS C111, HPIS Z 106 について、委員会での審議を受けて、修正作業が続けられていることが、事務局より説明された。
- 2) HPI が主催する技術セミナー(H30/1/16 開催)について、事務局から説明があり、各委員への参加と宣伝のお願いがあった。

以 上